

製品名: EAAT3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10266**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	57kDa

抗原情報

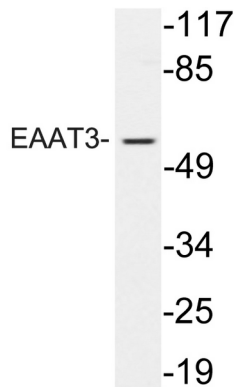
遺伝子名	SLC1A1 SLC1A1; EAAC1; EAAT3; Excitatory amino acid transporter 3; Excitatory amino-acid carrier 1;
別名	Neuronal and epithelial glutamate transporter; Sodium-dependent glutamate/aspartate transporter 3; Solute carrier family 1 member 1
遺伝子 ID	6505.0
SwissProt ID	P43005
免疫原	抗血清はヒト EAAT3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 122-171

背景

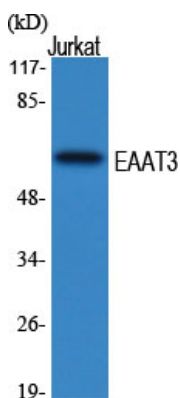
この遺伝子は、グルタミン酸を細胞膜を越えて輸送する上で重要な役割を果たす高親和性グルタミン酸トランスポーターのメンバーをコードしています。脳において、これらのトランスポーターは、神経伝達物質グルタミン酸のシナプス後作用を終結させ、細胞外グルタミン酸濃度を神経毒性レベル未満に維持するのに極めて重要です。このトランスポーターはアスパラギン酸も輸送するため、この遺伝子の変異はジカルボキシアミノ酸尿症（グルタミン酸-アスパラギン酸輸送障害としても知られています）を引き起こすと考えられています。[RefSeq 提供、2010年3月]、疾患：SLC1A1の欠陥は、ジカルボキシアミノ酸尿症（グルタミン酸-アスパラギン酸輸送障害としても知られています）の原因となる可能性があります[MIM:222730]。これは、腎臓、そしておそらくは腸管におけるグルタミン酸とアスパラギン酸の輸送に欠陥があり、中等度の高プロリン血症と関連しています。機能：L-グルタミン酸、およびL-アスパラギン酸とD-アスパラギン酸を輸送します。シナプス間隙から遊離したグルタミン酸を速やかに除去することにより、グルタミン酸のシナプス後作用を終結させるのに必須です。ナトリウムと共輸送することにより、共輸送体として機能します。ARL6IP5によって負に制御されます。PTM：グリコシル化されています。類似性：ナトリウム：ジカルボキシレート（SDF）共輸送体（TC 2.A.23）ファミリーに属します。サブユニット：ARL6IP5/PRAF3と相互作用します。組織特異性：肝臓、筋肉、精巣、卵巣、網膜芽細胞腫細胞株、ニューロン、脳（黒質、赤核、海馬、大脳皮質層で高密度発現）を含む、試験したすべての組織で発現しています。

研究分野

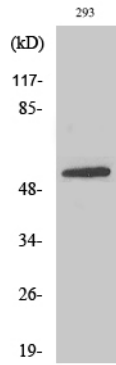
画像データ



EAAT3 抗体を使用して、EGF 処理した 293 細胞の溶解物をウエスタン ブロット分析しました。



EAAT3 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウエスタンブロット解析



EAAT3 ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析